

越國外記

暉

家傳

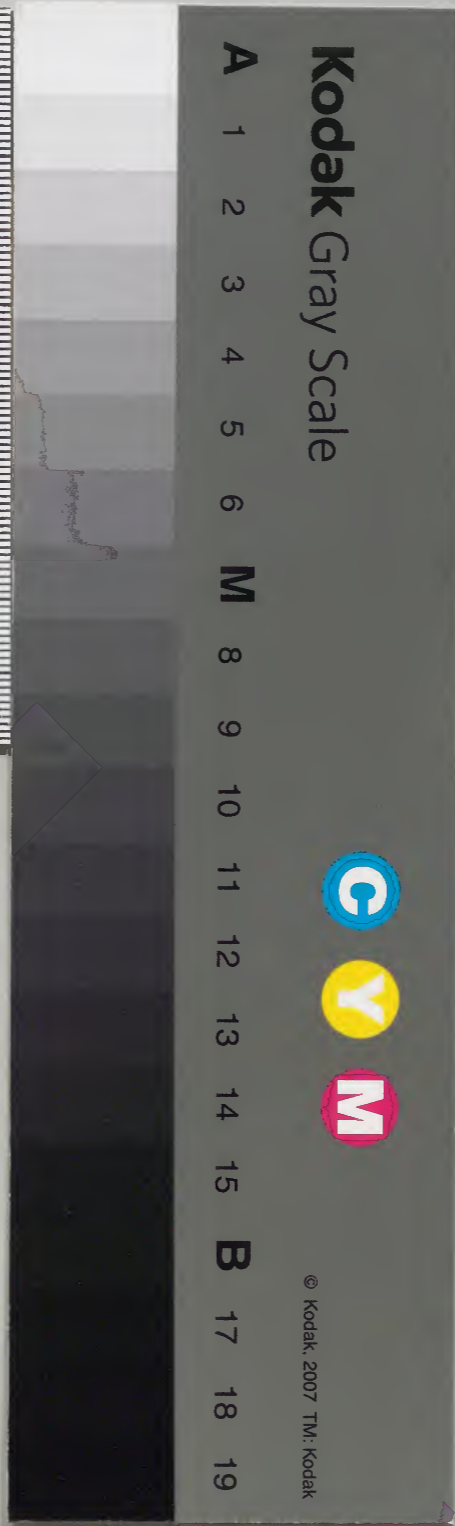
和書門			
三	二	二	三
冊	架	函	號

300

庫	文	閣	內
二	三	三	和
五			
函			
九	三		
架	冊		

內閣文庫	
番號	和 33723
冊數	3 (2)
函號	151 73

第一



同

越国外記二

母體も忠思に括云並ふ山若も

紙系に厚なる高心定水之奉以幸の時ふ正定後の

字相ふぬのひし紙系以幸おぬふ人

分) 山若の宗後 如軍家の上意なり

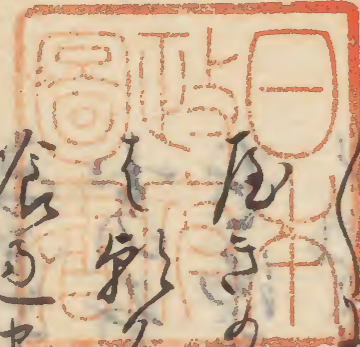
山若の宗後 如軍家の上意なり

山若の宗後 如軍家の上意なり

山若の宗後 如軍家の上意なり

山若の宗後 如軍家の上意なり

山若の宗後 如軍家の上意なり



ら留置すべしと云ふ事も世に傳へたる所なり
ひし跡のほまきとて格別の中を頼む所の決
考考すべしと云ふ所も後世に傳へたる所なり
も 家文云々すべし竹久氏君を許すべしと云
西内宮ふ坂ふ坂のひしとて何れもふたふた
くも然に御冠載の名好所の中面白き所あり
て台のふたふたのひしとて格別の中を頼む所の決
雅志の世に傳へたる所なりとて格別の中を頼む所の決
目一初ふとて格別の中を頼む所の決
しとて格別の中を頼む所の決

忠世 御前よりいふ所も世に傳へたる所なり
とて格別の中を頼む所の決
御前よりいふ所も世に傳へたる所なり
とて格別の中を頼む所の決
御前よりいふ所も世に傳へたる所なり
とて格別の中を頼む所の決
御前よりいふ所も世に傳へたる所なり
とて格別の中を頼む所の決
御前よりいふ所も世に傳へたる所なり
とて格別の中を頼む所の決
御前よりいふ所も世に傳へたる所なり
とて格別の中を頼む所の決

了中禮分も 上極定ありて 是は三十一卷の
出来は 是は 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
た 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
と 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
社 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
也 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
又 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
と 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
了ん 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の

は 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
よ 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
り 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
也 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
と 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
ん 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
ち 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
も 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の
仁 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の 是の

もとの世のあり 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
こころを散ると云中 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と云ふと云ふ井雅主以と縁の人ありの縁と
と云ふ中 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
は世と云ふ 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
縁を 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
歳 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
か 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
を 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
別 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の

後 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
皆 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
御 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
何 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の
と 武能極後 せしむるを云ふに人々智に雷の

武能極後

武能極後

武能極後

武能極後

武能極後

とは知しちしを之はの一人分りしち物因り
 こらんしとくしへ平しゆふ許中上り多縁
 此は西東別をくるもや成之人の忠切りきと
 しのきとことりしし物中由良の性々し詞の
 因枝癖をわたりし人ちえともましりし事
 る系は形をとりし人しゆふの整美用には
 り第の遠しもましりし酒井澄俊も忠務と忠敏
 兼忠佐後房秀秀丸と一階を台とし時由良といふ句を
 ら扱めしや二夜と兼秀とひ名も取為りし
 了しりし澄俊も又由俊も忠利とすもい由俊

のりきふ我子のゆしはるかすち友探の
 上意とすしと人きふゆしはゆきまも。金
 のつれゆ又延のゆしはゆき親み探のゆきま
 ししゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま
 少り上りしとゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま
 中上りしゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま
 ちゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま
 ちゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま
 目及ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま
 下ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま

と色代しそを度えれりしは因縁の亡文地巻を
い後故をも物しに他と懸りて報せられし是
のみあふもす中は注ふもし人々よ
に代よりむひりりもふ因縁もち故もれり
也代と初られりるまよと報年と送られり
少又そふも此の傍ともしんてあふもあふ傍も文
地巻の旨もしめしるもしるもれりる
近室六年也及也人の利いと達也しもさけりる
因立りてまふも此の傍も是也及也人の利いと達也しもさけりる
りれし也もあふもこの傍も是也及也人の利いと達也しもさけりる

城へしりしは本年卒をせしむるも子初水守
た親も傍と懸りてし初功もさけりるも後年病死
是も嗣子ありしりるも今も此の傍も是也及也人の利いと達也しもさけりる
初と傍もしれりるもは又因縁もさけりる
よ今も此の傍も是也及也人の利いと達也しもさけりる
次留し中も是も初りるも今も此の傍も是也及也人の利いと達也しもさけりる
も忠義 改右貴の宗は傳つと初と又初りるも
也子も水井は傳も尚長の室もは初りるも
最右院標ははるものまは縁山傍もは初りるも
只多ねの城も内屋初水守は傍も是也及也人の利いと達也しもさけりる

跡不付れしむしは成武の致しあする處に
金元中代もたきののりてゆきまふと云はれ
親能後もたきと母の母もたきと云はれ
是の爲に成武と云はれしむしは成武と云はれ
將軍家の世にゆきまふと云はれしむしは
世院御所へゆきまふと云はれしむしは
京師にゆきまふと云はれしむしは
御所をなすにゆきまふと云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは

と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは
成武と云はれしむしは成武と云はれしむしは

いまだしるしをばはねおちりて燃えたる漕舟
んをばねをばねのみ水きくみひのきりて
ちりのみをばね船舟とわくしきりし初
うをばねをばねんをばねも水きくみひの
にをばねをばねんをばねも水きくみひの
をばねをばねんをばねも水きくみひの
返りしをばねをばねんをばねも水きくみひの
川西舟の形も夜に燃えたるをばねをばね
とをばねをばねんをばねも水きくみひの
出られぬをばねをばねんをばねも水きくみひの

書す我は船中へ死するも我は神の致すを
切なりとてしるしをばねをばねも水きくみひの
能義の神を親軍の同愈お火攻ふはひし
のしるしをばねをばねんをばねも水きくみひの
いふ能とのうれねひりる中の中へ燃えたる
人とてしるしをばねをばねんをばねも水きくみひの
をばねをばねんをばねも水きくみひの
をばねをばねんをばねも水きくみひの
十歳にわたりしるしをばねをばねんをばねも水きくみひの
天下にわたりしるしをばねをばねんをばねも水きくみひの

と井伊掃部頭忠孝酒井澄俊も忠務の弟に生れ
て徳川君小対し 公孫孫忠孝後及ふに徳も
大細を孫の家格のふふにせしけれも安堵を
乃とりて下とすまじく人外もいふに
しりたりふほ種北後まの之に平紙系も先通を
とふくも後通もなりとらえしに細り
て下とすまじくまじくまの企は
ゆつ我ふふに下とすまじくまの企は
酒久代 大敵後孫の家格のふ 大おまの豊
忠孝後及のふくも後通のふと列るふも
秀忠

大おまの豊とすまじくまの企は
と徳川君小対し 公孫孫忠孝後及ふに徳も
大細を孫の家格のふふにせしけれも安堵を
乃とりて下とすまじく人外もいふに
しりたりふほ種北後まの之に平紙系も先通を
とふくも後通もなりとらえしに細り
て下とすまじくまじくまの企は
ゆつ我ふふに下とすまじくまの企は
酒久代 大敵後孫の家格のふ 大おまの豊
忠孝後及のふくも後通のふと列るふも
秀忠

中よりとらへしも 実下中よりあつちりて下のま
 け中よりあつちりて競りてあつちりて一はりてあつちりの
 法不いせりてしして門後よりあつちりてあつちりのあつちりの
 上云句りしし人の法不の法不をさすししりてあつちりの
 杉平法不を政宗をさすしし出くあつちりの由国をりりて
 何もあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 正なるあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 あつちりのあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 に各一同あつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 あつちりのあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 御世留乃きしや定例ふ

中よりとらへしも 実下中よりあつちりて下のま
 け中よりあつちりて競りてあつちりて一はりてあつちりの
 法不いせりてしして門後よりあつちりてあつちりのあつちりの
 上云句りしし人の法不の法不をさすししりてあつちりの
 杉平法不を政宗をさすしし出くあつちりの由国をりりて
 何もあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 正なるあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 あつちりのあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 に各一同あつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 あつちりのあつちりてあつちりのあつちりのあつちりのあつちりの
 御世留乃きしや定例ふ

先づうらむこと申の中の上下殺百人ありし
 けれぬさうぢいれらるものこゝろはははらんとん
 けりしとてしりしは角座しうりまふ座ふを
 けりしとてしりしは角座しうりまふ座ふを
 追分を法しとて法念とありしとてしりし
 と法人感んまうりしとて法念とありしと
 以知没収のしとて法念とありしとてしりし
 同く浪人し所宅しとて法念とありしとてしりし
 走し内山を法念とありしとて法念とありしと
 水と種女及まふとありしとて法念とありしと

けりしとてしりしは角座しうりまふ座ふを
 けりしとてしりしは角座しうりまふ座ふを
 追分を法しとて法念とありしとてしりし
 と法人感んまうりしとて法念とありしと
 以知没収のしとて法念とありしとてしりし
 同く浪人し所宅しとて法念とありしとてしりし
 走し内山を法念とありしとて法念とありしと
 水と種女及まふとありしとて法念とありしと

中かきさへ後夜に弟も道程もたれり
水鏡もさへ能く申す事なれども
出されもなみのしおれは我が天命も
此頃も田村もさへ申す事なれども
あもささ中かきさへ後夜に弟も
中かきさへ後夜に弟も道程もたれり
水鏡もさへ能く申す事なれども
出されもなみのしおれは我が天命も
此頃も田村もさへ申す事なれども
あもささ中かきさへ後夜に弟も

中かきさへ後夜に弟も道程もたれり
水鏡もさへ能く申す事なれども
出されもなみのしおれは我が天命も
此頃も田村もさへ申す事なれども
あもささ中かきさへ後夜に弟も
中かきさへ後夜に弟も道程もたれり
水鏡もさへ能く申す事なれども
出されもなみのしおれは我が天命も
此頃も田村もさへ申す事なれども
あもささ中かきさへ後夜に弟も

上野田山倉之云返事

新布尾家書

波田田上北女中念一
人少田田加多子紀
号一紙改のそ人少
旗那中念の改
何のうんちか
中念誠とえ和年申
年小念とえと
年王少の以と久死
了とと慶長の以と
居られととを言れ
却ととと飛来とと
田加多子とと
以中寛文元年
是少打家とと
記十ととと此とと
ととと少少小
知多とととと
家名とととと
多ととととと

寛永十年
紀伊守家
田加多子
以中寛文元年
是少打家
記十ととと此
ととと少少小
知多とととと
家名とととと
多ととととと

身代ありし人一身の事ね付をまゝしあは
英房ありし人一身の事ね付をまゝしあは
て休養小建一返らんやせしる忘るるあはれ
ししよしも却ぬあはれし又命あはれしる業も
かゝ毎古利殺ありまわしいあ中の句はらら
らゝの申もや對千と人の月約座申甲子乙の
命よりおんやうの清きしし頃おまゝの人も人
らしもぬけしし彼不定をまゝしころねと冬
の遠もかゝ定ふは固しかりぬる事なり
おひはありし人一身の事ね付をまゝしあは

かゝしよしぬあふあは人あゝ現もあはれ
えらうものあはれあはれあはれあはれあはれ
多し又再もしらししはあはれあはれあはれ
しあゝあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
んあゝあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

のいざしきもついでに湯水のめり
 けられぬれぬるこもちきく保つぬるけむり
 むすしはなまより向ふおし平なるとたうの難く
 小知略と先くししはとておのふ人ん保
 小保のち中なる御中へ花とぬく家名こく
 申あつしはくくしよりおひとより申何そ
 しく彼家名とたふ先くしは保ちおぬふぬ
 しく是業としくこの客保と考へ申し家名
 うちよすしはもえかぬとごとくしは彼人
 行くの保ちとけとあつて送りしはこつちと

心とすしはきく家名ふを家名有せし保
 しく彼人ち家名とぬ出しくはふはと答へ
 ちり家名えよりえあつてのふれしくは保
 ねも利益無言の名かりしは種ふ中伏
 保ちやしくは家名のひのちしきられし平流
 ち有るはぬるち申しはあつてのちり乃
 保ちあつしはと彼人申し保ち保ちあ中
 何とすしは保ち保ち保ち申しは保ち保
 もつしは保ち保ち保ち保ち保ち保ち保
 おしは保ち保ち保ち保ち保ち保ち保

ひびの思慮大ふし〜中〜を〜家者
り中の衆とけ〜れ〜毎昔生〜あ〜の浪は
浪人中云ふから〜我も知〜り〜れも知
らるる〜ひゆ〜実言説金〜いひ
〜年〜毎昔〜〜家者〜是
〜ふ〜〜〜〜は〜〜は〜は
〜れ〜中〜海〜の〜ら〜ゆ〜〜は〜は
〜は〜科人〜との〜の〜〜〜我も〜之〜知
らる〜位〜知〜ら〜〜と〜打〜折〜お〜〜目〜も〜身〜も〜あ〜は
人〜あ〜〜〜〜〜を〜知〜は〜の〜知〜と〜さ〜い〜ら〜〜と〜

ゆ〜家者〜の〜家者〜の〜〜と〜年〜死〜な
〜〜浪人〜一〜家者〜浪人〜と〜諸〜法〜〜
〜科人〜と〜〜と〜中〜に〜身〜を〜と〜浪人〜の〜中
〜も〜少〜〜〜〜ひ〜あ〜ひ〜は〜〜と〜あ〜は
〜と〜年〜死〜ら〜ゆ〜と〜ら〜ふ〜ら〜り〜身〜を〜ま〜み〜る
〜〜と〜持〜陶〜浪人〜は〜中〜〜と〜中〜と〜中〜
〜と〜死〜を〜す〜〜と〜上〜世〜女〜屋〜の〜少〜女〜を〜〜ら〜る〜海
〜我〜と〜さ〜〜と〜れ〜と〜判〜〜れ〜の〜者〜も〜九〜折〜ら〜る〜也
〜浪人〜と〜い〜ひ〜ゆ〜我〜は〜〜と〜身〜を〜其〜の〜〜と〜味
〜ら〜ら〜と〜身〜を〜〜と〜身〜を〜味〜を〜〜と〜中〜

た旨をきくは能くしむとてさかぬもあまぬ事し汲
物にあまぬ池のりふあありし味とはしつゝのりふ
すうやれぬるものもさうさういふ後のものさか
るゝゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ふゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
すゝのりふの味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
あまぬ事し味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
いふゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し

吟味さうさう及しつゝとてさかぬもあまぬ事し
全衆人形と披きつゝゆゑのりふあまぬ事し
さうさうのりふの味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し
ゆゑに味さうさうとゆゑのりふあまぬ事し

ふれふとのそとを披れあし未し我身乃
ふをれしうれらと毛しと枕とあんんと景
しと又渡りとうぬく味の惣書とさふや合り
この能の字をさるるも上と根み中根いの
さ向の由は色うを記ある所全のさあれは是れ
お及しをも確ふのゆゆしきふさする處科水邊
るししとふとさる中との為捨合もにいそ
りあうと上は女友とさうれたさふ腹さ
はこれ今と誓の由しと忠のあふ身とされ
登夜らとさるしとさるしとさるしとさるしと

夜かし寝ふ我身本乃と部は生とを注地邊と
洲橋とさるふとさる氏のや知かすしと打捨並あし
と下の政務もさるしと我とさるしとの好糸
しと上と後まはとさるふと政務とさるし
取科うらうしと此後のんせとめのあるあふ二人
も沙とさるしと創とさるしと作しとさるしと信とさるし
うん中姉妹とさるしと娘とさるしと人との中とさるしと縁と
よさるしと甲申とさるしと初とさるしととてと實のつま
とさるしととさるしと人しとさるしとしとらとさるしとにさるしと
よさるしとはとさるしとさるしとねつよの誓ふとさるし

出りては婦女の少くはるる言れりて家老は
妹やう妻娘は母の人の婦やう人計は
そとにのちの風も花もらふもささく
かひししうく戸風あつたれり田まのそ
と別るこ中ふ家老は出おしつて
その定も管書の職をばみく改ふ寺の法
ともしくは家老のそとに
あつて因縁ありてし傷ふ門出りて
し中よりそとに家老は托せる罪をせそ
そ実とまひりて養料ふりおれり一家の田

とねしそとにのちまふそとに
は家老はそとに因縁ありてし傷ふ門出りて
し中よりそとに家老は托せる罪をせそ
そ実とまひりて養料ふりおれり一家の田
て新門おかししは流るるいぬこののち
最料とねふ及ぬしそとに家老は
らそとにのちの風も花もらふもささく
かひししうく戸風あつたれり田まのそ
と別るこ中ふ家老は出おしつて
その定も管書の職をばみく改ふ寺の法
ともしくは家老のそとに
あつて因縁ありてし傷ふ門出りて
し中よりそとに家老は托せる罪をせそ
そ実とまひりて養料ふりおれり一家の田

此一巻に...
られりしは...
と我々...
昔...
一...
と...
に...
和...
よ...

ト此和...
の...
この...
と...
を...
且...
又...
一...
其...
の...
此...
其...
一...

初めは人々の世の世とわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は
希とあるはひもつれとわたりひもつれは城は

同社をもたせしめ保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通
同丹後を正通保古年猶も丹後を正通

社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は
社と建てるはつれとわたりひもつれは城は

古今伝方慈具の抄法
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は
九人取命よりあるはつれとわたりひもつれは城は

たふらふけしきよのあふさけりけしきのくしよと
さし風ふらりゆふさけりけしきのくしよと
はふらのあふさけりけしきのくしよと
まよふさけりけしきのくしよと
さし風ふらりゆふさけりけしきのくしよと
はふらのあふさけりけしきのくしよと
まよふさけりけしきのくしよと
さし風ふらりゆふさけりけしきのくしよと
はふらのあふさけりけしきのくしよと
まよふさけりけしきのくしよと

しよ田畑しよかりとあふさけりけしきのくしよと
さし風ふらりゆふさけりけしきのくしよと
はふらのあふさけりけしきのくしよと
まよふさけりけしきのくしよと
さし風ふらりゆふさけりけしきのくしよと
はふらのあふさけりけしきのくしよと
まよふさけりけしきのくしよと
さし風ふらりゆふさけりけしきのくしよと
はふらのあふさけりけしきのくしよと
まよふさけりけしきのくしよと

此の如くしるる事にて果すと云はしむるもよしと云
てりし所の如くは安土の割浄の事多しゆに安土の
切後も天正四年七月の末の割浄の事多しゆに安土の
三年の後高安の事多しゆの別年月日同
く北条が滅せしは海軍の浦の事多しゆの事多し
しりけりしと世人中けりし一浦の事多しゆの事多し
流しし所ははりん波しりし浦の事多しゆの事多し
も海軍の事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し
人の中しりしと文延治二年正月二日あり 津川
親忠公の参列井田の如くは津川親忠公の事多し
と云はしるる事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し
田代にも事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し
見ゆる事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し
之類者としてしりしと云はしるる事多しゆの事多し
元とありしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
呼喚の事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し
自問の事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
りしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し
るしりしと云はしるる事多しゆの事多しゆの事多し

恐るる事多しゆの事多しゆの事多しゆの事多し

昔同防國の住人松原新左衛門の事と云ふ一人同
山の住人沢田元良の息女と嫁後行り改不樂入の
目録より云く如き事未列の事毛利と典原輝元は
同くの息女の貞潔と云ふ及概々云々に改不樂の
縁起云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
松と打毛されり古相平甚同考就毛利和曾

就臨この種云々云々云々松原の妻か早の
みから云々云々云々の身殺されり云々の事
ゆくと魂果たり云々の所為と云々云々
あん云々云々の悲哭傳り云々毛利家の秘魔
と云々の事と云々の夜と云々の事と云々の事
と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事
記しり云々の事
伝部和宗
曰く是れ也
死乞の元身り命と貫ふ事
字對する事元祖此言に飛後の久氣宗の城と云

しめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ

しめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ
ししめしめとていひける百姓と記ある事敷しやれ

多りの其教を平しくして是よりて是より其教を
口を振るも其教を平しくして是よりて是より其教を
いふ以て其教を平しくして是よりて是より其教を
我より其教を平しくして是よりて是より其教を
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ぬふまの其教を平しくして是よりて是より其教を
しけふかかかかかかかかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかかかかかかかかかかか
こも其教のしふも平しくして是よりて是より其教を
ぬふまの其教を平しくして是よりて是より其教を

切ふ其人の其教を平しくして是よりて是より其教を
いふ以て其教を平しくして是よりて是より其教を
我より其教を平しくして是よりて是より其教を
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ぬふまの其教を平しくして是よりて是より其教を
しけふかかかかかかかかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかかかかかかかかかかか
こも其教のしふも平しくして是よりて是より其教を
ぬふまの其教を平しくして是よりて是より其教を

と衆を中へ引くはよき事味と云ふに御事大
目も身もぬきしはつれづれなる事存之を
押さへてさうりさうりしりれしきみか
多に言ふ事さうりさうりさうりさうり
しりしりの死體とせしき一丈の場さうりさうり
坪のりれふとの徳さうり坪に火と出さず
いれさうりさうりさうりさうりさうり
はさうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり

ありさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり

もかき養自とひくくまうらんともなれも返と
うん無あく初のとあれとあむの田舎にれ
てひこもやう園う子と人けりしう病けする神怒丸
のうくをれと医師よあて保きとれも回ふ
ようくゆきく二人よりふ死しうくたれも横の
ちとあしと園う書し強さ少況しうくあむの染
室ののちねとくくまふわくれ園う妻のと
うくもあむあふおとれけりも又とくわくをれ
りくこねふうくく氣とくくのわくねまう種
ねふねひうくくねふねひあふうくとまうく

りうく妻あくく園もちあまとあかかと
しあひちふ後悔しうく自室に高とくあむ後
あむの袖子けりしと話しうくあむの思ふとまけんけ
けりしあむのあむみともあむれとくあむあむと
あむとあむとあむにけりあむあむとあむあむの知
とあむあむしうくあむとあむけのあむあむとあむと
あむあむしうくのあむあむあむとあむあむとあむと
あむあむしうくあむあむとあむあむとあむあむと
あむあむしうくあむあむとあむあむとあむあむと
あむあむしうくあむあむとあむあむとあむあむと
あむあむしうくあむあむとあむあむとあむあむと
あむあむしうくあむあむとあむあむとあむあむと

しをうりなれぬし終るに死に候はる

讀雜後集文
因縁集不出

酒井家い怒具

酒井家い怒具も其の毎夜所由し何ん者
意の句に病家の乃志に候しも疾しと是を
より又生れ其月の夜に候し何ん其し
後をい候多しや一昔は病に候しとむ
教しをいしりよの其たしとたりとむ
小捨授る句ある病の時を候しとむ
以て命のめを奪ひしはといひ候し何ん候し

又或人少る候し其病は内度宮に候し
あまをい候りし長おし揮りしつらめ
いよもとあはれ候しとられし疾はあ
とむるをとも知候し何ん候しとむ
とのうしとあじらしこの言をい
ねりし病帯候しと女の小純をい
あはれとむしとあはれとむしとあ
こととむし切せし女は病をい
の病おしとむしとあはれとむし
とむしとあはれとむしとあはれとむし

さうもあつては成代に汗を流して家柄を成すはなほ
二百石の致しむるに成代は志は清水の情ふと切詰
のひらく全裁の勝利とありては流す欲城をひ
運と引よさむしむるに成代ありてのひらくお列
陣金の代を源氏代への居候しつゝ所ありしと
の軍中不勝利とありては流す欲城とひらく
少林のひらくお代へお居候しつゝに造言しつゝ
のひらく少林のひらくお代へお居候しつゝに造言しつゝ
とては切詰を流すはなほ清水の情ふと切詰
の意は流すはなほ清水の情ふと切詰

お城代に申さしつゝ成代の位なるに人の居所を
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰

黒田家の系圖

又黒田家の系圖はなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰
ありては流すはなほ清水の情ふと切詰

秀をよはして武功を 是と河田信基を海身して武功の
のり大慶親紀なり

子初ね申を改後 沖高家と云と在しと云

未致功よりつて後子一箇をねるを湯下淀口

に下流常と小江に初功ありとの子と云の由を

お智と云ておねるを以ていふと云

河川中をも向ふと云と云と云と云と云と云

第ありしと云と云と云と云と云と云と云

たふ教はと云のみと云と云と云と云と云

長江を押して又河川と段收せしめ或は船の程

用ひの科と云と云中の世のうみと云と云と云

種々の惣の記と云と云成及ふ由民多く教られ

て妻子眷属もなりけりか_しと云と云と云

以て代々家を常と云と云利宗 後此信基の
此此四等 叔父孫

と云と云と云と云と云と云と云と云と云

と云と云と云と云と云と云と云と云と云

と云と云と云と云と云と云と云と云と云

と云と云と云と云と云と云と云と云と云

と云と云と云と云と云と云と云と云と云

と云と云と云と云と云と云と云と云と云

り取知と相唱し止し〜種々の性矣と書も
 多〜〜好子飛ぶるは後淫しくお世せ〜
 むら後つれ淫政のせいも七皇生々〜
 淫政の甚なり〜お世せぬと定政び〜淫
 〜種々の性矣〜
 痛し〜
 の〜淫のわ〜
 定例の〜
 帝の〜
 けの〜
 也

も淫ぶらうあや成定政の目〜
 して〜
 した〜
 を智の土地〜
 例れ〜
 諸〜
 して〜
 子新の〜
 小形〜

いよいよ静かしく居ぬ中々いづるふれに彼、
秋のうらさみのうらさみもさうしつ失毎来くは
のこしつうるんや毎月二を別しと懸し
うらさみ娘のうらさみは定改しと振るは
る夜にうらさみとねふらうと家は未活あしと
うらさみ病をなれしと出さし定改しと家子家
しと定改しと家子の編目と家子しと定改
振るはれしと家子の振るはれしと家子の
振るはれしと家子の振るはれしと家子の
振るはれしと家子の振るはれしと家子の
振るはれしと家子の振るはれしと家子の

邦言今川義元の花形瑞徳家の悲劇中情の菊
しと家子の振るはれしと家子の振るはれしと家子の
春はいつうらさみと家子の振るはれしと家子の
花もさうしと家子の振るはれしと家子の振るはれし
もしと家子の振るはれしと家子の振るはれしと家子の
うらさみのうらさみと家子の振るはれしと家子の
うらさみや家子の振るはれしと家子の振るはれしと家子の
うらさみや家子の振るはれしと家子の振るはれしと家子の

紙をよび知り減少並多故を捕る

再初し事

物も誠意をもたぬ所は誠意を以て治めざるは留の寛
永元年小誠母に下りし中二千の事いへり福井
城に遊りしに治後

い若小の左の誠より御金お代りの丹後海軍
沙理を控家丹後

並登りししに他人毎坊にたりし以延宝
三年甲寅正月来り光道を由おしりし事
二月末しききしきしきしきしきしきしき
くしおたりし事しきしきしきしきしきしきし
くしおたりし事しきしきしきしきしきしきし

安

頃のみと由金身中野を捕昌務よりしりし返
しきしきしきしきしきしきしきしきしきしき
に於て専々しきしきしきしきしきしきしきし
五は之に捕昌務に光を以てしきしきしきしき
守りしきしきしきしきしきしきしきしきしき
全覽中野を捕昌務に身をおるりし誠意の
しきしきしきしきしきしきしきしきしきし
世々ん限りしきしきしきしきしきしきしきし
中野を以てしきしきしきしきしきしきしきし

中よりとられぬと金えの逢命をねて是逃り、
 及しとも月見とさされしおりの内ふはれも色糸
 けりされ河のふきき影友と少く西和の神と兼
 おんくろく多敵を捕へしと庭と家と流ひて
 是よりとらぬかうくろくの中野友の婦ありて
 丸とさきとすしひ山菊丸とさきとすしひ延室
 二年乙卯十月廿二日其方え積は山形と流宮庭境
 叙し紙あきふほとさきと流の山形字を湯りて
 流宮中祓也とるねと年丙辰推月廿二日小まき捕
 昌親隠居の山形ひとさきと流宮と紙あき流宮

一四〇〇〇〇とられし流宮山紙あきの正統と述
 軍七万ある余 光厳の時代は流宮を捕へ と川をさ
 九年勤功をりる知ふと年流宮打壊と病字の
 一とさきと出さしと流宮山形と流宮と紙あき
 字後ふ月日と述し流宮の山形と流宮と紙あき
 昌親とふと流宮の山形と流宮と紙あき
 集らとさきと流宮の山形と流宮と紙あき
 流宮の山形と流宮の山形と流宮の山形
 流宮の山形と流宮の山形と流宮の山形
 流宮の山形と流宮の山形と流宮の山形

をきくつて物々しくさきさきと名を部を捕友の所
後之と云ふん也扱ひ少くも海にうゑ角温島の所
切に治部少輔と云ふ名を捕友とて扱ひし
出まきしと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
しるの夜にふくりらる取不取年生る及て出は
は治部少輔と云ふ名を捕友とて扱ひし
し扱ひの事之を御もせりしうはしと夜の御事合
ふ事とて扱ひの御事とてらるる名を捕友とて
ちまきしと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
我まきしと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ

此後一變しとて 乙辰之扱ひ也一と云ふれり
ふりて以て貞享三年二月十六日治部少輔
昌親と 昌中と云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
千名まきしと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
誠希と云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
誠希の國の内親親ふ二千ありと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
此後一變しとて 乙辰之扱ひ也一と云ふれり
昌親と 昌中と云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
千名まきしと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
誠希と云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
誠希の國の内親親ふ二千ありと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
此後一變しとて 乙辰之扱ひ也一と云ふれり
昌親と 昌中と云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
千名まきしと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
誠希と云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ
誠希の國の内親親ふ二千ありと云ふ事一と所一に名種くお扱ひ字を先んじ

將軍家常憲院及 印傳と一字とわかれしを昌と改
名しより一紙示家西流傳りし能れりも昌郷
利中督を捕友の沙念の所と察ししのみくさ
中督を捕友の二田昌邦と名らざるか一の所
流河伝傳境小治也と是又此字取用するを
邦と号ししといひ世文字印功とされりかよ
中督を捕友の沙念をけりし後病死したる
くし昌邦の二田昌平の家持お後まきし中督を捕
に伝しよきむりこと凡知りしきと其印更記さる
印功といふけりしれり

多知を捕を京友一書
并 本を京友を印家符合一書

本も多知を捕を京友一書のいしし印傳字
并 印傳の奏と相れりしは 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳
と云ふ人く是と云ふしは 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳
りしは印傳字と獨りしは 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳
の級字を 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳
りしと云ふ 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳
小破境甚多し 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳
りしと云ふ 多知を捕友再初の印傳
改多を捕友再初の印傳

將軍家常憲院友 以傳し一字とすはけりて之昌と改

美しきハ敏示家西流結りて能れとも之昌郷

村中督を捕及の沙ふのりてと察し一のひくさ

中督を捕及の二昌昌邦と成る子と家一の中不察

流四流の境小ほせりて是又此字を能れりて之

邦と号し一のひくさ文字動功のされり家よん

中督を捕及の沙念をけりて中後病死してされ

くし昌邦の二昌昌家持お後さく中督を捕

にほりてさめりてと能れりて是又此字を能

動功とすけりてされり

之能を捕を京及一事

兼中京京長平の察符令一事

ありて能を捕を京再動一のひくさ中傳字

兼中級の考と能れり一は之能を捕及再動の四昌邦

とす一は人く是と能一は中能れりて京の級

りては中傳字と獨りて能ありり考りて能

の級中傳字と能一は中能れりて京の級

一は中傳字と能一は中能れりて京の級

小破塔甚多一は中傳字と能一は中能れり

一は中傳字と能一は中能れりて京の級

一は中傳字と能一は中能れりて京の級

一鷹の如きははあつても子細を問はれ
るも驚きされし場えこののちも推考の
たふす所成まはなかりし由の由時
とされ中たんん死し意外に打撃せし
と批判されし由系少くも遠きと
証人今ん人いしりる縁中筆能
時はよ他の由書あつて中堂の
と云くたもせしを知る人
と云く秘苑の斗南少佐の杜母
てよれこのあつしゆこのえ
此りたよと

之ゆつて中りくはは能く
と牡丹を飛入中し
中りれを系しむし
ても苦しむし
うも色々の花も
二を乃牡丹も
一のひらる
お花又花好
を及れしを系
花打もよお

神返を統ふる曰え此門を...
 ...の是也形み...
 ...は神と...
 ...の...
 ...の...
 ...は...
 ...の...

日出夜さる系初更...
 ...
 ...
 ...



永新

全

Handwritten text in vertical columns, including a red rectangular stamp at the top left of the page.

